



第 23 号

R2.12.7

文責 倉迫

建学 145 年

お願い

保護者の皆様、子どもたちには、週末から多くの不安や恐れを持たせてしまい申し訳ありませんでした。冷静な対応をしていただき本当にありがとうございました。PCR 検査を受けた児童・職員共に陰性が確認され、校内の消毒も完了したことから、本日からの学校再開となりました。

本校児童のコロナウィルス感染を受けて、12月7日（月）朝から学校朝会を行い、再度子どもたちには、今後の気持ちの持ち方や頑張してほしいことについて話をしました。

これからもコロナウィルス感染症を身近なこととして、また自分事として考えてほしいこと、感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち接してほしいと話しました。

また、うわさ・悪口・嫌がらせは、絶対しないこと、感染者探しよりも自分自身がしっかりと予防することが大切であることも加えて話しました。

「やってはいけない行動の合言葉 **かさでこげ**」を再度、提示しました。

- 「か」・・・感染者探し
- 「さ」・・・差別・偏見
- 「で」・・・でまやうわさの拡散
- 「こ」・・・(感染者の) 個人情報の流出
- 「げ」・・・(感染) 原因の責任追及



保護者の皆様への**お願い**です。

～誰もが感染する可能性があります、その上、新型コロナウイルス感染症には、未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多いと思います。私たちは、この感染症と現時点での科学的な知見や見解に基づいて正しく向き合うことが必要です。

2点お願い

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないことです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童や家族、教職員を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。自分が差別等を行わないだけでなく、「感染した個人を特定して避難する」「感染者と同じ職場の人などに悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せず、「そんなことはやめよう」と声をあげてください。人々の優しさは、ウイルスとの闘いの強い武器になります。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対するご理解とご協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では今後も感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子どもたちの健やかな学びを最大限保障するための取組みを進めていきます。～

これからの予測困難な時代を生きていく子どもたちが、必要となる力を身につけていくことができるよう、学校の教育活動の継続へのご理解とご協力をお願い致します。～

文部科学大臣 荻生田光一（抜粋）

学校朝会終了後、第1校時に各学級で発達段階に合わせた人権学習を行い、差別や偏見等の間違いや思いやりの心の大切さについて学びを深めました。子どもたちが不安に思っていたら、励ましの言葉をかけてあげてください。どうぞよろしくお願い致します。